

かわさきコロナ情報(動画特設ページ)

#39 令和3年1月19日 ~保健所などコロナ対応部署の現状~

1月19日、かわさきコロナ情報をお伝えします。これまでも、コロナに関して医療機関などを皆さんに御紹介してきましたが、今コロナに関係する市の関係部局は多忙を極めています。その中で今日は2つの施設を御紹介したいと思います。一つは川崎市の「健康安全研究所」というところで、これは全国47都道府県に一か所ずつ設置されている「地方衛生研究所」に位置付けられていまして、都道府県と政令市でも川崎市のように一部がこの機関を持っております。日頃は、公衆衛生に関する収集、調査、分析、情報発信、こういったことをやっています。ここの所長が岡部信彦所長でして、今国の内閣官房参与になっていて、新型コロナの有識者会議の会長代理をやっていたり、全国的な活躍をさせていただいていますが、この情報というのが今川崎市でも大変大きな役割を果たしています。昨年2月くらいからPCR検査、行政検査の全てをこの「健康安全研究所」で担っていますので、土日は問わず、夜間も大変遅くまでなっております、多忙を極めておりますが、この状況について皆さんに知っていただきたいと思っております。

それでは、御覧ください。

動画① 川崎市健康安全研究所

=====
こちらが今、コロナウイルスの検査、一番最初に病原性がある状態の検体を取り扱っている部屋です。この部屋は陰圧になっていまして、外に空気が漏れないようになっているので、万が一こぼしたりしまっても外に漏れ出すような心配がない部屋になっています。

実際の検体は、多くの場合はこういった状態で運ばれてきてまして、これは国連で定められているものなんですけれども、その中にこういったものが入っていて、実際のもはこういうサイズのものに入ってきている状態です。

—これはいくつ検体が入っているんですか？

このサイズですと7~8個、もう少し大きいものもあるので、そういうものですとこういうものが20個~30個まとまって入ってきていることもあります。

—ここにこれが運ばれてきて、ここから取り出して、どこまでが作業になるんですか？

取り出しまして、これを専用のチューブに移します。一度遠心分離をして、本当に必要なものを不活化する—ウイルスを殺して、かつ抽出をしやすくなる試薬というのがあって、そこに移すところまでをやります。それに混ざれば基本的にウイルスは感染させる恐れがなくなりますので、そういう状態になりましたら、あのボックスを通してあそこから向こうの部屋に移して、続きの作業をその人にやってもらうというかたちです。

—なるほど。ここが、では一番危ないというか、危険なところですね？あそこの壁を越えると不活化されていると。

基本的にはそうですね。

ここで作業をするときには感染しないように、ウイルスが漏れていないかというのを一つひとつ確認をしながら必要に応じて消毒をして気を付けてやっています。

(健康安全研究所職員)

マスクも普通のマスクではなくてN95マスクという特殊なマスクをするので、やはり苦しいというのがありますし、目の方もフェイスシールドですとかゴーグルを着けるので、細かい字がすごく難しかったりします。一回着てしまうと多少のことでは出れない、終わるまで出れなかったりするので、数時間にわたって中はずっと作業をしているというのはかなり疲労は出てくる作業にはなっていると思います。

主に私たちは抽出作業といって検体を先ほどお見せしたカラムの中に入れて試薬で洗浄をして最後はウイルスのRNAを溶出するという作業を主にウイルス検査の方と、あと今人が足りないので消化器細菌ですとか呼吸器細菌の方々にも手伝ってもらって一緒にやっています。

やはりコンタミネーションが一番怖い、陽性検体の後に陰性検体をやるときに陽性の検体が入ってしまったり飛んでしまったりということがあると、検査の結果に誤りが出ってしまうので、それが起こらないように細心の注意を払ってやっています。

(令和2年度新規採用職員)

4月の時点だと、ただ先輩方がすごい忙しそうに働いていらっやって、それについていけるように、いろんな事を頑張って覚えて早く力になれるように、という感じで動いていました。

(健康安全研究所職員)

最初の方はすぐ収束するかなという感じだったんですけど、ここまで続いたら不安というより、やるしかないというか、終わるまで耐えるしかない。

(令和2年度新規採用職員)

私は4月に入って、最初の仕事としてコロナの勤務に配属されましたが、今まで臨床検査技師としてはPCRというのはとても珍しいことだったので、とても経験になると思いますので、今後も勉強しつつ、市民のために検査をし続けたいと思います。

(令和2年度新規採用職員)

市長の言葉の中で、今年の漢字を市長が感染の「感」とおっしゃっていて、確かに今年感染が広まる中で人々の動きによって、いろんな嫌なことを感じたり、逆に良い行動に感動したりというのはすごく共感できるところで、これからも、感動を与えるようなというのは難しいかもしれないですけど、正確に検査を続けて、少しでも多くの人がいい気持ちになれるような仕事を続けていきたいと思いました。

=====

いかがだったでしょうか。地道な作業でありますけれども、一つも間違えてはいけないという緊張感と、長時間1つの部屋にということなので非常にストレス、精神的にも体力的にも厳しい職場であります。奮闘しておりますので、是非皆さまのサポートをお願いしたいなと思います。

さて続いて、保健所について御覧いただきたいと思います。まず、川崎市の保健所というのは市役所に1か所ということになっていますが、そのほかに各区に衛生課という形で、川崎市役所の保健所支所として各区に設置してあります。実質は各区の支所というところが、陽性患者さんのフォローアップ、あるいはクラスターが起こっている・いないといった積極的疫学調査を行っているという形でフォローアップをしているところ。これは大変数が急増しておりますので、多忙を極めている状況にあります。

そして、川崎市役所にあります保健所は、7区から上がってくるデータを集約して分析して、各近隣の自治体との調整、県・国との調整などを行っております。そのほか保健所の隣にありますのは医療調整本部といいまして、まさに患者さんの容態に合わせて、どこの病院に入院をお願いする、あるいは対応をお願いする、病床を確保する、こういった医療機関との調整を激しくやっています。病床が非常にひっ迫している中、受入れが非常に困難な状況の中で病床を調整しているというところになります。それでは、保健所の今ということで御覧いただきたいと思えます。

それでは、御覧ください。

動画② 各区保健所支所

=====

(中原区役所衛生課職員)

本当にこの1か月2か月くらい数が毎日歴代最高を突破して、従来だったら問題なかったやり方が、数が増えることで把握ができなくなってきたりとか、いろんな人が助けてきてくれる中で情報の共有をしなきゃいけなかったりとかというので、毎日やり方をちょっとずつ変えていかなきゃいけない、昨日やったやり方だと今日はうまくいかないみたいなのがどんどん増えているから、そのやり方の見直しというか、コミュニケーションを新しい人とか派遣さんとかとってっていうのを毎日続けなきゃいけないのが大変なのと、取りこぼしがなかったっていうのを把握するのが大変だっていうのと、あと際限なく24時間、24時間までいなくても朝から晩までひっきりなしに届けが出てくるんで、仕事の終わりが無いというか、定時で終わった後も同じ業務をずっと継続し続けなきゃいけないっていうのが大変なところかもしれない。

(川崎区役所衛生課係長)

患者さん、高齢者の方が非常に増えていて、家庭内感染が非常に多いんですけど、結構急変される方とかもいるので、やっぱりフォローの部分も大変ですし、感染症の拡大防止で疫学調査をする中で、聞き取りにひとり1時間弱。

(川崎区役所医監)

患者さんの数が多いので、そこは私だけではなく職員も大変さはあると思えます。

(健康福祉局感染症対策課職員)

大変ですね。大変です。みんな疲れていますね。

(健康福祉局感染症対策課長)

本庁保健所感染症対策課の仕事なんですけれども、川崎市7つ現場に区がありまして、そこで患者さんが出ると患者調査、患者さんの周りに具合の悪い人がいないかどうかなんてことをやらせていただいている部分の報告が全てここに集まってきております。

その中でももちろん川崎市内で完結しないことも多いですので、他都市とのやりとりですとか、同じフロアにある医療調整本部、入院調整、患者さんを重症化予防のために仕事をさせてもらってますので、ちゃんと適切な医療につなげるっていうことで仕事をやらせていただいている状況です。

もちろん患者さんの数が増えたことによって業務の量ももちろん増えていることは事実なんですけれども、やはりその患者さんが具合が悪くなったときにちゃんと連絡ができる体制ですとか、ちゃんと患者さ

んがフォローできるっていうことに漏れがないようにすることに気を遣っています。患者さんの報告があったのを、疲れたからとか、その日電車がなくなっちゃうから次の日でもいいとか、そういうことが今できない状況はあるので、うちの職員たちも申し訳ないんですけどもギリギリまで仕事をしている状況はあります。

春から比べまして、やはり患者さんの急増、患者さんの調査及び接触者の調査が今追いつかなくなりつつある中、やはり若い方には行動の制限っていうものを一つちょっと気にしていただいて、マスクをしていただいて手洗いをしていただくということを、また再度認識をしていただくとうれしいなあとは思っています。

(会議風景)

なので非常につらいです、連休もすごく綱渡りで、ひとつの症例でつないだりしましたから。これは喫緊というか、どうしたもんかっていう。ベッドがないので、ここも県とちょっと連動してやらないといけない。

(健康福祉局保健医療政策室長)

我々保健医療政策室の中に、医療調整本部っていうのを立ち上げています。これは4月から立ち上げています。その中で入院調整を主にやっているっていうのが我々の職務になりますね。当然受け入れてくださる病床を確保するっていうことから、その病床を使っていかに効率的に入院調整をしていくのかが我々のミッションになっています。当然この第3波に備えては、市内の病院さん市立病院あるいは民間病院さん、そういうところの病院さんたちと本当に多大なる御協力をいただきながら病床を何とか確保してきているんですが、ここにきてその我々が確保している病床のスピードよりも感染のスピードが急増してしまっている。で、ここでなかなかむやみやたらに増やせないという中でジレンマが非常に大きいですね。年が明けても感染が収まっていくという気配が残念なならないので、これからが本番だと考えています。

態勢的にもきつくなってきているっていうのはあります。でも、そんなことは、医療現場の方々ももったきつい思いをしているので、我々は与えられたミッションをしっかりやっていくことを、どういうふうにやっていくかってことも含めて随時考えているところですね。

(中原区役所衛生課職員)

毎日今日が限界だなというのを更新しているような形で、負担も大きいんですけども、入院したい人が全員入院できる環境でもなく、また濃厚接触者の方がみんな検査をできるという環境でもない中で、そこでの調整というか誰に入院をしてもらうのかであったりとか、濃厚接触者の方の少しでも不安を和らげてとか、一人ひとりの患者さんの安全につながるという意味では、保健所が果たす役割というものも絶対に必要なものだとは思っているので、大変だとは言いながらも、これからも市民のためにみんなで力を合わせてやっていけたらと思います。

(川崎区役所衛生課係長)

本当に一人ひとり職員さん本当に頑張り屋さんで、あんまり文句とかもないというか、市民のために頑張りましょうっていう姿勢でみなさんいて、そういう意味ではほんとに一人ひとりの頑張りに頭が下がるような形です。川崎区としては、とりあえず職員お互いフォローしつつ、何とかコロナ禍を乗り切りたいと思っております。

(川崎区役所医監)

川崎区は結構医療機関が多くて、病院も全てのスタッフ方を始めとして医療機関の皆さんすごく協力的
というか御協力をいただいているので、先ほど衛生課が大変というお話もあったんですけど、区役所
全体で、総務課、危機管理、企画とか地域支援課とか区役所挙げて協力いただいているので、オール
区役所プラスオール川崎区で頑張っていきたいなとは思っております。

(健康福祉局感染症対策課職員)

市民の方々が安心して暮らせるように感染を抑えられるといいかなと。そのためにできることをやって
いけたらいいかなと思っております。

(健康福祉局感染症対策課長)

患者さんの増加に伴って今現場も感染症対策課も日々頑張っているところではありますけれども、そ
れはやはり皆さん市民のために、コロナの感染症の蔓延の防止のために調査をさせていただいてます
ので、そこは御協力をいただきたいのと、引き続き市民の皆様には予防を徹底していただいて、また平
時が取り戻せますように保健所としても頑張りますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

=====

御覧いただきまして、保健所の今の忙しさというのを感じ取っていただけたのではないかと思います。
す。

私たち市役所としても、通常の保健師さんを中心とした、それ以外の業務というのをどうやって切り
分けて、そこに応援部隊を派遣するかということで、いろんな工夫をしているところです。

何よりも大事なのは、また、保健師からの切実な声というのは、何とか新しい感染者を増やさないで
くださいということでございます。

皆さん御協力いただいているところでありますが、より一層、誰がどこでかかってもおかしくない状況
でありますから、是非お一人お一人の意識というのをもっと高めていただいて、何とか新規感染者を食
い止めるということに御協力をお願いしたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。